

ワークショップを活用した宇和島道路高架下における有効利用の検討について（中間報告）

四国地方整備局 大洲河川国道事務所 調査第二課 藤岡大悟

1. はじめに

一般国道56号宇和島道路の宇和島坂下津I.C間～宇和島朝日I.C（高架部）は、平成17年7月に暫定2車線供用をした。

当区間の高架下利用につ

いては、平成15年7月に利用計画案が宇和島商工会議所から市長に提出されている。このような地域における気運の高まりを背景に、道路管理者である国土交通省が、市民との協働でワークショップ方式（WS）にて高架下利用方法（案）を検討した。



図1. 検討区間位置図

2. ワークショップ（WS）の概要

2.1 目的と目標

- 目的
 - ・宇和島道路の高架下利用方法の検討及び計画立案に市民が参加すること。
 - ・市民参加により、宇和島道路ならびにまちづくりへの理解を高めること。
 - ・利用者である市民の幅広い階層からの意見を取り込んだ直接参加型でプランニングすること。

- 目標
 - ・高架下利用計画案を数案作成し、WS参加者同士の相互理解を得ること。

2.2 成果の位置付け

WSの成果を基に、道路管理者は高架橋下利用方法の具体的検討に際し、技術的検討及び関係機関等協議を進める。

2.3 実施方式

- 参加者
 - 一般公募として広く市民の各層から参加を募ったほか、沿道住民、市内の高校生、市内の各種団体、行政（愛媛県、宇和島市）にも参加を依頼し、合計42名募った。（一般公募9名、その他33名）
- 公開性
 - 自由参加者（飛び入り）も受け入れることとした。開催予定、結果、成果もホームページを通し公開することで、WS全体の透明性確保に努めた。

2.4 実施日、テーマ

	開催時期	場所	テーマ	出席者
第1回	H17.1.16	宇和島市生涯学習センター	・現地視察及び課題の抽出 ・高架下利用のアイデア出し	29名
第2回	H17.2.6	ター	・高架下利用計画案の作成	26名

3. 検討区間平面図

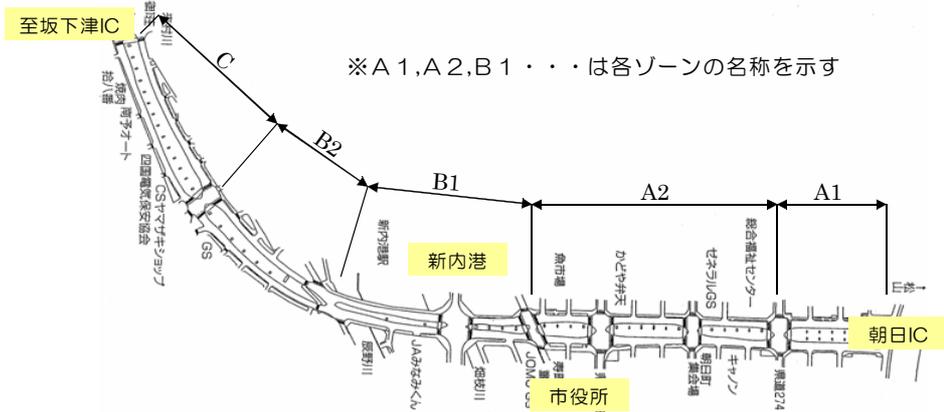


図2. 検討対象区間 (L=1.3km)

4. 実施内容

4. 1 第1回WS 【知る・見つける】【アイデアを考える】

4. 1. 1 手順

WSはテーマに沿った形で、班単位(計4班)に分かれ、以下の手順で実施した。

- ①WSの目的、位置づけ、商工会議所の案などについて理解する。
- ②現地視察を通して宇和島道路及び高架下の実態を知り、利用可能空間、利用可能性を見つける。
 - ・高架下の利用出来るところ、良いところや改善が必要なところを探し出す
- ③対象区間の高架下利用の用途や使い方のアイデアを考える。
 - ・意見、アイデアを出し合う
 - ・出た意見、アイデアをまとめ、みんなで優先順位をつける
- ④利用用途の公共性等の評価項目について説明する。



写真1 高架下の現況

①現地視察



②グループ の話し合い



③グループ 発表



④アイデア 投票



写真2. WS実施状況

4. 1. 2 結果（第1回）

提案されたアイデアについて、最後に全員で優先順位の投票(1人3票)を行った。この結果、もっとも多かったのが「駐車場」で、これは当地周辺の公共施設等の駐車場不足を反映したものである。

以下、トイレ、イベント広場、緑地、犬の散歩道、災害対策用倉庫、スポーツ練習場の順であった。

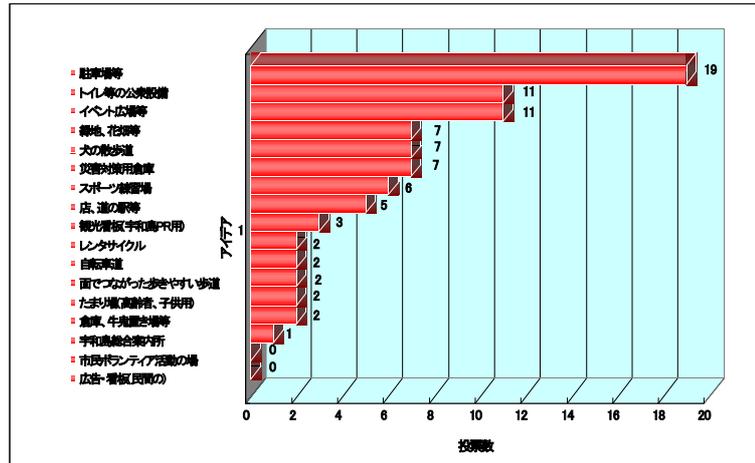


図2. アイデア投票結果

4. 2 第2回WS【高架下利用計画案をつくる】

4. 2. 1 手順

- ①今後の高架下利用の目標像を考える。(ブロックごとのイメージを文章で表現)
- ②利用計画案を作成する。(目標像をもとに、大判図面に描画または貼絵で表現)
- ③計画案の評価を行う。(「費用分担・管理主体・公共性の有無・安全性の確保」等の課題について検討、記述)
- ④各班が作成した計画案(計4案)を発表し、みんなで確認し、相互理解する。

4. 2. 2 結果（第2回）

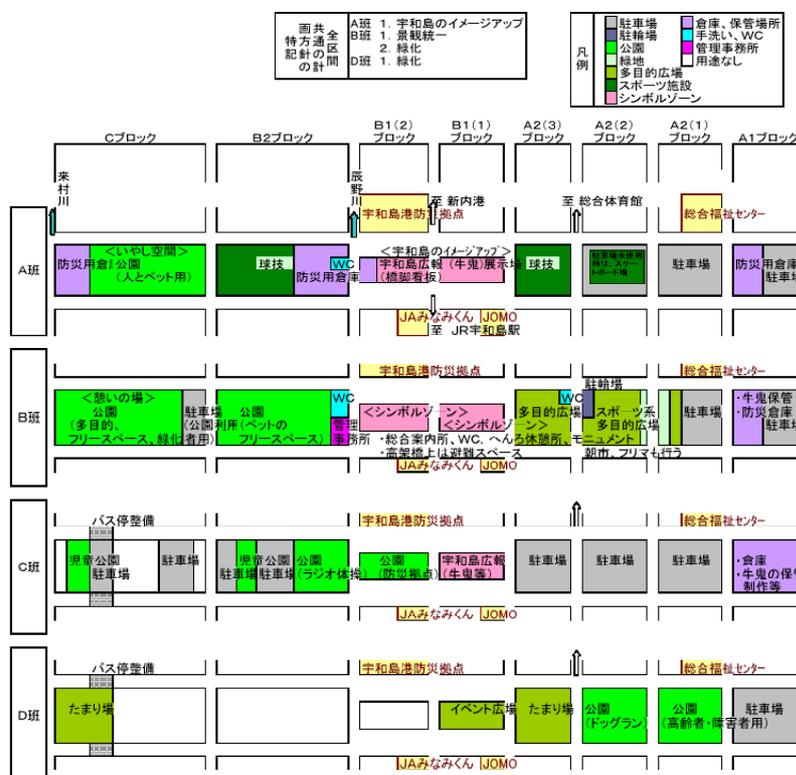


図3. 各班の利用計画案(用途別にモデル化)

目標像をもとに作成した計画案(図)では、駐車場、公園(ペット用含む)、スポーツ広場、多目的広場、防災拠点、シンボルゾーン(宇和島市のイメージアップにつながる施設を配置するゾーン)等が提案されている。各班での提案は大きくは変わらず、当該地に必要とされる機能でかつ実現性の高い利用計画案となっている。

これは、意見交換しながら計画を作成するWSの過程で、効果的な結果と考えられる。設置管理方法では、市民主体の管理運営方法も提案されており、今後の事業実施における官民連携、協働の示唆を得た。

5. 実りあるWSとするための取り組み

計2回の限られた時間の中で、市民の方々に理解を深めていただき、自らが主体となって有効な提案を作成していただくために、以下の点を配慮し取り組みを行った。

5. 1 活発な議論を行ってもらうために

参加者に、自由な雰囲気の中で楽しく意見交換してもらうために、第1回WSでは、趣味等を記入した自己紹介カードを用い参加者同士が打ち解ける時間（アイスブレイク）を設けた。第2回WSでは、平面図に配置する駐車スペースやスポーツ施設等を切り貼りしながら、全区間の計画平面図を作成する等、遊び心を持てる形で作業し、達成感が得られるような工夫を行った。



写真3. 利用案作成状況

また、WSの運営方法のチェックを兼ねて、各回終了時に「振り返りアンケート」と題して、①わかりやすさ②意見が言えたか③楽しさ④意見、感想について全員に回答してもらったが、どの項目についても回を重ねるごとに良い結果を得ることができた。

5. 2 実現性の高い提案とするために

第1回WSの終了時に、高架下利用実現のために①費用分担②管理主体③公共性の有無④安全性の確保等の課題を解決する必要があることを提示し、第2回WSではこれらの課題について具体的に検討し、表に記述してもらった。（文中4.2.1 ③）

これらの作業を通し、参加者が主体的に創意工夫を行い、その結果非現実的な案が淘汰され、配置用途は採択要件をほぼ満足し、官民協働型の運営管理方法も提案されるなど、実現性の高い案となった。

6. WS案を活用した高架下利用検討

今後の高架下利用計画策定の事前検討として、4班の折衷案、民意反映型計画案、都市的要請型計画案の3案を作成した。

このうち都市的要請型計画案については、今後関連調査を行い、需要検討、規模の妥当性、施設の配置等の課題を検証しその見直しが必要である。

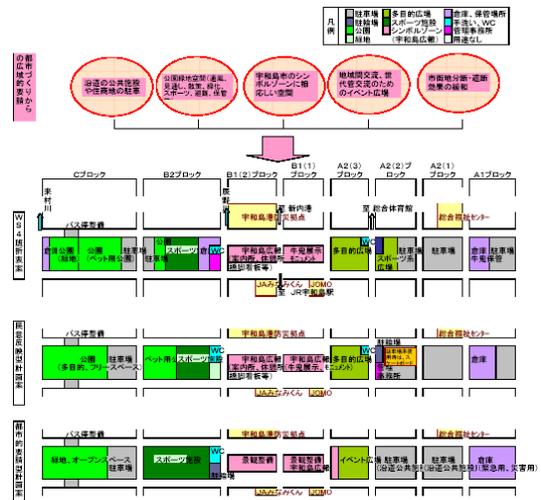


図4. WS案を活用した高架下利用計画のイメージ

7. 今後の予定

今回のWSで作成した4案について、参加者同士の相互理解ができた。今後このWSの結果を受けて、高架下利用計画を策定することとなる。課題として「事業の進め方」「利用用途の選定や配置」「市民との相互理解」の大きく3つに分かれる。

宇和島道路が更に発展できるように、また地域で活動している道路ボランティア団体（愛称：オレンジロード）と共に育つように、今後の宇和島道路の事業に取り組んでいくことが必要かつ重要であると考えている。